

# 3 速読

## 「御伽草子」

名前 年 組 番

字数 290 字  
目安時間 5 分

正答数 2

検印

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

—— 文正は、かつての主人である大宮司殿から、娘（姫）たちを息子の妻にと言われて喜んだ。——

姫たちはあさましげなるけしきにて、涙の色見えければ、あきればててぞゐたりける。姫たち仰せけ

1

るは、「いかなる女御后にも、または位高き公達などこそ、もしも思ひつき候はんずれ。さなくは、尼に

あるいは（なろうと）思い及びましよう。

なりて後世菩提を願ふべし」と申しける。文正面目なく、大宮司殿にこのありさまを申せば、大宮司殿

腹を立て、「なんぢが子供の分として、自らを嫌はんこと、不思議なれ。急ぎ参らせずは、なんぢを罪科

罪人と

に及ばすべし」とのたまへば、文正また娘の方へ行きこのよし申しければ、姫たち仰せけるは、「かやう

5

の道は高きにも賤しきにもよらぬことにて候へ。ただ尼になりてうき世を厭ふか、さなくは、淵河へも

つらい現世から隠遁（いんとん）するか、

身を入れん」と嘆きける。

### 語注

\* 女御后…女御や后。天皇の女官のこと。

\* 後世菩提…来世の幸福や極楽往生。

問1 傍線部はどのようなことを言おうとしているのか。その説明として最も適当なものを次から選べ。

- ア 子の将来は、親であるからといって一方的に決めてよいというものではない。
- イ 結婚相手は、身分さえ高ければ当人の人柄は問題でないというものではない。
- ウ 人間の間柄は、かつての主人ならば相手を従わせられるというものではない。
- エ 男女の縁は、身分の高低を理由にして無理に決められるというものではない。

問2 本文の内容に合致するものを、次から一つ選べ。

- ア 文正の娘たちは、望まない結婚を強いようとする大宮司殿をのしつた。
- イ 文正は、大宮司殿を怒らせたくなくて娘たちを説得しようと思つた。
- ウ 大宮司殿は、文正の娘たちが結婚の話を承諾するのは当然だと思つていた。
- エ 文正とその娘たちは、互いに主張がかみ合わず、縁を切ることにした。

3  
復習

## 「御伽草子」

名前 年 組 番

正答数

12

検印

## 文法Q

傍線部①～⑤について、本文横の□を埋め、文法の説明を完成させよ。

## 省略Q

本文横の□に省略された語句を記せ。(本文中の語句で答えること。)

動詞  
行  
活用  
形

姫たちはあさましげなるけしきにて、涙の色見えければ、あきればててぞゐたりける。姫たち仰せけ

形容詞  
活用  
形  
主語  
は

るは、「いかなる女御后にも、または位高き公達などこそ、もしも思ひつき候はんずれ。さなくは、尼に

動詞  
行  
活用  
形

なりて後世菩提を願ふべし」と申しける。文正面目なく、大宮司殿にこのありさまを申せば、大宮司殿

形容動詞  
活用  
形

腹を立て、「なんちが子供の分として、自らを嫌はんこと、不思議なれ。急ぎ参らせずは、なんちを罪科

目的語  
に

に及ばすべし」とのたまへば、文正また娘の方へ行きこのよし申しければ、姫たち仰せけるは、「かやう

形容詞  
活用  
形

の道は高きにも賤しきにもよらぬことにて候へ。ただ尼になりてうき世を厭ふか、さなくは、淵河へも

身を入れん」と嘆きける。

## 単語Q

波線部⑦～⑧の本文中での意味を答えよ。(活用する

語は終止形の訳語でよい。)

ア

イ

ウ

エ

## ☑その他の覚えておきたい単語

見ゆ…①見える。目に映る。

②会う。対面する。

③結婚する。④(人から)見られる。

⑤(人に)見せる。

公達…上流貴族の息子。貴公子。